

NPO法人で活躍されている方

若者の自立支援に携わっている方

不登校のお子さんをお持ちのご両親

通信制高校の運営に関わっておられる方

通信制高校へご興味のある方

NPO法人との協働を考えている企業の方

教育関係の方



不登校、高校中退者の自立、そして未来の貧困を救済するシンポジウム

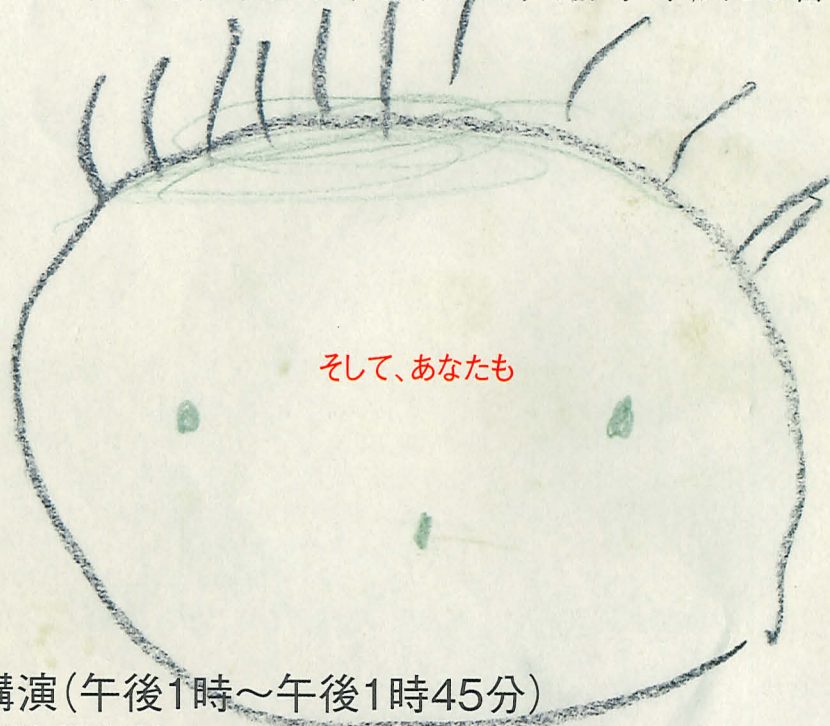
開催日時：平成28年1月9日(土)

午後1時～午後4時

開催場所：大河原町世代交流いきいきプラザ

「多目的ホール」

(宮城県柴田郡大河原町大谷字末広50番の1)



そして、あなたも

少しの時間、一緒に考えてみませんか？

第1部 講演(午後1時～午後1時45分)

「若者が希望を持てる社会を作るために

地域参加型高校づくりへの挑戦」

講師：認定NPO法人D×P 理事長 今井紀明

第2部 パネルディスカッション(午後2時～4時)

【パネリスト】

認定NPO法人D×P 理事長 今井紀明

NPO法人TEDIC代表理事 門馬優

宮城県立美田園高校 教師 川上芳夫

司会進行 詩誌『回生』 小熊昭広

入場無料(定員150人)
事前申込必要なし
大河原駅徒歩10分

※ 駐車場はありますが、できる限り公共交通機関での来場をお願いします。



主催 詩誌『回生』 (<http://www.poetic.jp/kaisei/>)

問合せ先 宮城県柴田郡大河原町大谷字原前50の5 小熊方

電話 090-5230-2349 mail: kaisei@poetic.jp

講師及びパネリスト紹介

認定NPO法人D×P 理事長 今井紀明



「ニート問題」を解決するためには、「なってしまうまえの予防」という観点が必要だという考えから、高校生、特に通信制高校を対象に、「自分でもできた」という成功体験を重ねていくことで、自己肯定感を高め、社会への意欲を持ち、自律力を身につけるためのキャリア教育プログラム「クレッシェンド」を展開。

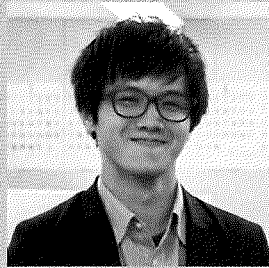
ひとり一人の対話を重視して、少人数制の運営を行い、プログラムを終えた生徒には、セカンドステップとして多彩なサポートプログラム（「ITスキルの取得講座」「企業へのインターンシップ」「アート展・写真展の実施」）を提供。

多様なロールモデルとの出会いが継続的な人間関係を構築し、機会格差を是正し、「自分でもできた」という成功体験を重ねていくことで、自己肯定感が高まり、社会への意欲を持ち、体験を通じて自律力を身に付け、若者の自立を支援する活動に取り組んでいる。

[団体沿革]

- 2010年 3月 朴基浩とともに任意団体「Dream×Possibility」を設立
- 2011年 8月 団体初となる通信制高校でのキャリア教育「クレッシェンド」(第1期)を開始(現在まで第9期を開催)
- 2012年 6月 NPO法人格取得(NPO法人D×Pへ改称)
- 2012年 8月 社会起業塾イニシアティブ「花王起業塾」へ選出
- 2013年 12月 定時制高校にて特別授業を試験的に実施(2014年10月本格実施)
- 2014年 4月 厚生労働省「平成26年度社会福祉推進事業」に採択
- 2015年 1月 泉大津市にて、生活保護家庭の高校生向けプログラムを実施
- 2015年 1月 第5回地域再生大賞を受賞

NPO法人TEDIC 代表理事 門馬優



平成元年3月1日生まれ、宮城県石巻市出身。早稲田大学大学院教職研究科修士課程卒。学生時代に認定NPO法人カトリバに3年間コミットし、東日本大震災での緊急支援を経て、大学院在学中に2011年5月にTEDICを設立(2014年9月にNPO法人化)。現在は、石巻市内において不登校、生活困窮世帯の子ども・若者支援、大学生の中退予防支援にあたる。石巻専修大学共創研究センター特別研究員を2年間務めた後、2015年4月より同大学復興ボランティア学支援室事務局長、子どもの権利条約フォーラム2015in石巻事務局長に就任。その他に、NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会(JVCA)検定・認定システム化検討委員会委員、JVCAボランティアコーディネーション力検定1級。

宮城県立美田園高校 川上芳夫 (教師兼コーディネーター)

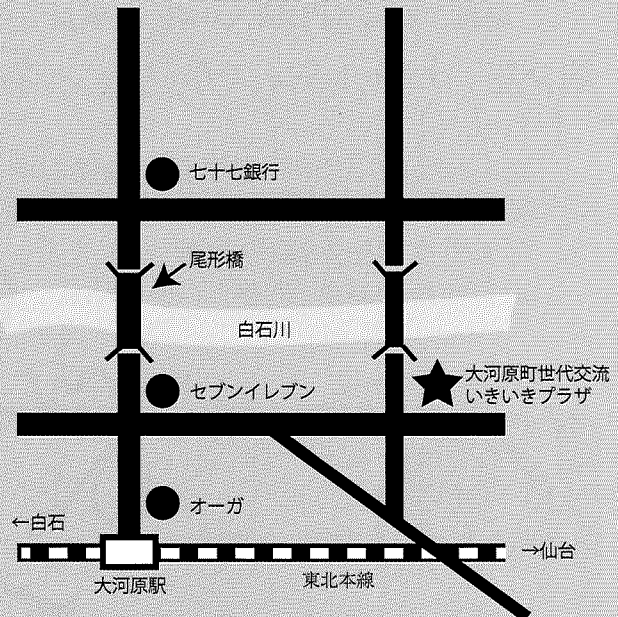
宮城県で唯一の公立の通信制高校の教師であり、修学に困難を抱える通信制高校に在学している生徒の学習の場の確保や生活環境の調整等、教師の役割を超えて訪問活動を行い、生徒の卒業の支援を行っている。

開催趣旨

これからの未来に向けて、子どもや若者達の様々な自立への選択肢や可能性を考えるために、不登校や高校中退を経験した若者たちの通信制高校や定時制高校を利用した自立支援について、子どもや若者達の学習支援や自立支援に取り組んでいるNPO法人の代表者の方々による先進事例に学ぶシンポジウムを開催します。

主催する詩誌『回生』は、大河原町で発行されている詩の雑誌です。今回のシンポジウムは文学とは直接に関係ありません。しかし、詩的行為は社会との関係を抜きにしては考えられないものです。その意味から、詩誌『回生』では、「無意味な意味の尾形亀之助読書会」という詩の可能性を考える勉強会を隔月で定期的で開催し、詩に限らず社会の問題についても勉強する機会を持っています。今回の企画も「第25回無意味な意味の尾形亀之助読書会」として開催するものです。

(詩誌『回生』編集同人 小熊昭広)



※ 当日、午後7時から、仙台市内で講師の今井紀明氏との交流会を会費制で開催する予定です。ご参加希望の方は、詩誌『回生』小熊までご連絡ください。